

EN (絶滅危惧 I B 類)

兎目 ウサギ科

カテゴリー判定基準：B-1, 2, 3; D

アマミノクロウサギ

Pentalagus furnessi (Stone, 1900)

英名：Amami rabbit

旧レッドリストカテゴリー		
1991	1998	2007
V	EN	EN

日本固有種

奄美諸島の奄美大島と徳之島の2島にのみ分布する固有種である。特異で原始的な形質を有すること、分布域がきわめて限定されていることなどから学術的にも重要視されている。分布域は奄美大島で約370km²、徳之島で約33km²、個体数は奄美大島で2,000～4,800頭、徳之島で100～200頭と推定されている。自然林の伐採、林道建設、河川改修、外来捕食者（フイリマングース、イヌ、イエネコ）、交通事故などがその存続を脅かしている。

The Amami rabbit, *Pentalagus furnessi*, is endemic to Amami-oshima and Tokuno-shima of the Ryukyu Islands. Population size has been estimated at 2,000-4,800 in Amami-oshima and 100-200 in Tokuno-shima. The major threats are a decrease in the area of natural forests, road construction, and non-native carnivores (mon-goose *Herpestes auro-punctatus*, domestic cat and dog) as well as road kill by traffic.

基礎情報

■**形態** 背面が暗茶色、下面は淡い茶色を帯びた暗灰色の体色をしている。体重は1,300～2,700g、頭胴長418～510mm、尾長11～35mm、後足長85～92mm、耳長40～45mm。目と耳介が小さく四肢が短い。爪は強力で穴掘りに適している。頭胴長はノウサギ (*Lepus brachyurus*) と同等であるが、耳介と四肢は約半分である。

■**分布域** 鹿児島県の奄美大島 (712km²) と徳之島 (248km²) にのみ分布している。垂直分布は海岸線から山岳地（奄美大島の最高峰694m、徳之島の最高峰645m）まで分布する。

■**生息環境** 高齢級林の中やこれに隣接して餌量の多い疎開地（林冠ギャップ、伐採跡地、若齢二次林、沢、林縁等）がある環境が好適である。休息は樹洞や岩穴のほか大木の根元に長さ3～4mの穴を掘る。産仔用の巣穴は、長さが1mほどで、母親が夜間授乳に来るとき以外は入口は閉鎖される。

■**生活史** 飼育下の観察では、繁殖は4～5月と

10～12月の年2回、1産1仔、産下された仔の体重は100gほどで、約2ヶ月後に巣穴から出てくる。年間を通して仔ウサギの糞が見られるところから、年間を通して繁殖している可能性がある。飼育下での寿命は15年ほどである。鳴き声でコミュニケーションを図る。

現在の生息状況

■**分布域の現況** 分布域は奄美大島で約370km²、徳之島で約33km²と推定されている。奄美大島では1970年代と比べると分布域の縮小が見られ、徳之島では孤立した2地域に生息するに過ぎない。

■**生息地の現況** 奄美大島では、北部と島の外縁部にリュウキュウマツ植林が、中部以南に山地自然林（シイ・カシ林）が広がっている。徳之島では広い範囲にリュウキュウマツ植林が広がり、北部の天城岳周辺と中部東寄りの井之川岳周辺のみに山地自然林が見られる。山地自然林の面積率は、奄美大島で30%、徳之島で15%、リュウキュウマツ植林は奄美大島が43%、徳之島が24%となっている。1953年に奄美諸島が日本に復帰し、奄美振興事業による林

道建設が始まり、伐採方式が択伐から皆伐になり、アマミノクロウサギの生息環境が悪化した。

■個体数の現況 個体数は減少傾向にあり、奄美大島で1993～94年に2,500～6,100頭、2002～03年に2,000～4,800頭、徳之島で1998年に120～300頭、2003～04年に100～200頭に減少したと推定されている。生息数が比較的多い地域は、奄美では川内川左岸部、住用川上流部から湯湾岳周辺部など、徳之島では天城岳南部、井之川岳西部である。

存続を脅かす要因

森林伐採(11)、道路建設(24)、河川改修(13)、土地利用転換などによる高齢級林の減少・細分化により好適生息地が減少し、本種の個体数減少と地域的絶滅を起こしてきた。また、奄美大島では1979年前後に導入されたといわれるフイリマンガース(*Herpestes auro-punctatus*)が分布を拡大し、捕食者として脅威となった。ノイヌやノネコによる捕食も起きている。交通事故死も起きている。

保護対策の現状

種の保存法に基づく国内希少野生動植物種。1921年に、動物としては初めて国の天然記念物に指定され、その後1963年には特別天然記念物に指定されている。また、アマミノクロウサギを捕食している外来種フイリマンガースの駆除を図るために、1996～99年度に環境庁(当時)・鹿児島県による「島嶼地域における移入種駆除・制御モデル事業(マンガース)」が行われ、2000年度からは環境省による本格的な防除事業が進められた。2005年外来生物法が施行され、フイリマンガースが特定外来種に指定された。フイリマンガースの根絶事業が環境省により開始され、フイリマンガースの減少とアマミノク

ロウサギの回復が認められている。

特記事項

森林伐採を制限し、孤立化した林分を回廊により連続化し、保護地域を設定することや、保護地域の周辺は生息適地となるような森林施業を行い、バッファゾーンとすることが望まれる。外来捕食者の駆除と並行して、イヌ、イエネコの放飼禁止、交通事故防止、生活史の解明、普及啓発活動が重要である

参考文献

- Fukasawa, K., T. Miyashita, T. Hashimoto, M. Tataru and S. Abe, 2013. Differential population responses of native and alien rodents to an invasive predator, habitat alteration and plant masting. *Proc. R. Soc. B*, 280: 20132075.
- 鹿児島県, 2004. 第6回自然環境保全基礎調査種の多様性調査(鹿児島県)報告書. 自然環境研究センター, 東京, 11pp.
- 自然環境研究センター, 1995. 平成6年度生態系多様性地域調査(奄美諸島地区)報告書. 自然環境研究センター, 東京, 108pp.
- Stone, W., 1900. Descriptions of a new rabbit from the Liu Kiu islands and a new flying squirrel from Borneo. *Proc. Acad. Nat. Sci. Philadelphia*, pp. 460-463.
- 杉村乾, 1998. アマミノクロウサギ *Pentalagus furnessi* の生息数の推定と減少傾向について. 第12回環境情報科学論文集, pp. 251-256.
- Sugimura, K., S. Sato, F. Yamada, S. Abe, H. Hirakawa and Y. Handa, 2000. Distribution and abundance of the Amami rabbit *Pentalagus furnessi* in the Amami and Tokuno Islands, Japan. *Oryx*, 34(3): 198-206.
- Sugimura, K. and F. Yamada, 2004. Estimating Population Size of the Amami rabbit (*Pentalagus furnessi*) based on Fecal Pellet Counts on Amami Island, Japan. *Acta Zoologica Sinica*, 50(4): 519-526.
- Watari, Y., S. Nishijima, M. Fukasawa, F. Yamada, S. Abe and T. Miyashita, 2013. Evaluating the "recovery-level" of endangered species without prior information before alien invasion. *Ecology and Evolution* 2013, 3(14): 4711-4721.
- Yamada, F., 2009. *Pentalagus furnessi*. *Wild Mammals of Japan*.
- Yamada, F. and K. Sugimura, 2004. Negative impact of invasive small Indian mongoose *Herpestes javanicus* on native wildlife species and evaluation of its control project in Amami-Oshima Island and Okiwana Island, Japan. *Global Environmental Research*, 8(2): 117-124.

執筆者：山田文雄(森林総合研究所)